

奥多摩町で駆除された野生シカの E 型肝炎ウイルス等保有状況調査 (平成 17 年度実施内容)

1 目的

近年、鳥インフルエンザなど動物由来のウイルス感染症が話題となっている。同様に E 型肝炎ウイルス (HEV) も動物由来感染症の原因のひとつとして注目されている。

E 型肝炎は、E 型肝炎ウイルスの経口感染により引き起こされる急性肝炎である。1990 年以降、国内で渡航経験がないヒトの発症例が相次いでおり、イノシシ、鹿肉などのハンティングミートや豚レバーの生食もしくは加熱不足が原因として強く疑われる事例が報告されている。

都では、平成 15、16 年度に HEV の増殖器官であるレバーに着目し、豚における HEV 遺伝子の保有実態および HEV 感染履歴を調査したところであったが、平成 16 年度には、奥多摩町の野生鹿の駆除に伴い、検体としてレバーを入手する機会を得たので、その HEV 保有状況を把握するため調査した。平成 17 年度については、更なるデータの蓄積を図るため、引き続き調査を実施している。

2 実施機関

- (1) 検体収集等
東京都西多摩保健所
- (2) 試験検査
東京都健康安全研究センター微生物部
- (3) 野生シカの駆除実施主体
奥多摩町観光産業課

2 調査予定期間

- (1) 夏期：平成 17 年 9 月から平成 17 年 10 月まで
- (2) 秋期：平成 17 年 11 月から平成 17 年 12 月まで

3 検査対象及び検査項目

- (1) 肝臓及び血液
E 型肝炎ウイルス (PCR 法による遺伝子の検出及び ELISA 法による抗体の検出)
- (2) 腸内容物
 - ア 食中毒起因菌 (腸管出血性大腸菌 O157、サルモネラ、カンピロバクター)
 - イ 原虫類 (クリプトスポリジウム、ジアルジア)

4 予定検体数

60 頭程度 (各期 30 頭)